

平成 23 年 1 月 11 日（火） 13:00～

ホテルライフオート札幌

今求められる国語科の授業

オツベルと象の実践から

北海道教育大学附属札幌中学校

教諭 上田 浩嗣

1 はじめに

新しい指導要領の趣旨を反映した授業づくりが進められている。自分自身も現在試行錯誤しながらその具現化に向けて実践を重ねている最中である。その中で、今現在、自分が大切にしているところを授業づくりのポイントとして整理してみた。改めて、当たり前のことを当たり前にすることが大切であると実感した。実際に行った授業をもとにしながら、説明していきたいと考えている。みなさまのこれからの授業づくりに役立てていただければ幸いである。

2 授業づくりのためのポイント

今求められる国語科の授業と題したが、特別なことをすることが大事なのではなく、教師の意識をしっかりと持つことが大切なのである。自分なりに意識するポイント次の3点に集約した。

- (1) 生徒が学ぶ目的を明確にできる授業づくり
- (2) 系統性を意識した授業づくり
- (3) 言語活動と指導事項が結びついた授業づくり

これらのポイントを意識して授業づくりに入ったとき、現在自分が考えている具体的な手だてを次に示す。

3 具体的な手だて

- (1) プロセスとゴールが生徒にわかる授業 ⇨ 2 (1)

- ・この単元（授業）が何を目指して進んでいるのかを生徒と共有する。
- ・どのように単元が進むのか、教師と生徒とで共有する。
- ・この授業のゴールで自分たちがどのような姿になっているのかを想起させる。

- (2) 授業を通して何が身に付くのがわかる授業 ⇨ 2 (1) (2) (3)

- ・教師が生徒につけたい力を明確にもつ。
- ・つけたい力が生徒に身に付くような活動を考える。

- (3) 学んだことがこの先どのように結びついてのいくのがわかる授業 ⇨ 2 (1) (2)

- ・今までの授業とのつながりを意識させる。
- ・実の場（もしくはそれに近い場）の設定を図る。
- ・生徒の振り返りを大切にする。
- ・これから何に役立つのかを結ばせる。

- (4) 仲間と学び合う価値が実感できる授業 ⇨ 2 (1)

- ・仲間の声を聞く場をつくる。
- ・自分一人ではできない活動がある。

- (5) 言語活動のとらえ ⇨ 2 (3)

- ・言語活動＝生徒にとっては目標／学習の目的

・言語活動＝教師にとっては指導事項を身に付けさせるための手段

☞ 生徒にとっては、意欲に結びつくような言語活動になっているか？

(○楽しそう、おもしろそう、ためになりそう)

☞ 教師にとっては、指導事項が身に付くような言語活動になっているか？(×活動あって学びなし)

4 実践例

(1) 単元の概要

この単元では、「宮沢賢治の人柄を作品から読み取り、レポートにまとめて発表する」という活動を設定した。

まず、宮沢賢治の人柄を作品から読み取るためには、『オツベルと象』と宮沢賢治の他の作品と比べて、類似点を探るという学習が有効であると生徒と確認する。そして生徒は『オツベルと象』と比較する作品を選ぶことになる。類似する観点については、例示をしながらも、生徒に任せることとした。その後、発見した類似点を学級全体で交流をして、それぞれレポート作成に入った。単元の最後は、それぞれが作成したレポートを用いて、仲間に自分がとらえた宮沢賢治の人柄を説明した。

(2) 指導要領とのかかわり

言語活動例 ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。 (宮沢賢治の人柄を作品から読み取り、レポートにまとめて発表する)				
指導 事項	重 点	学 習 活 動	評 価 規 準	時
ア	宮 沢 賢 治 の 人 柄 を 探 ら う	・自分が比較したい作品を選び、それぞれの文章を読む。 ・作品の使われている特徴のある語句の意味を捉えながら、文章の大まかな意味を捉える。		1
ウ		場面の構成の仕方、表現方法、登場人物の類似点や行動、言動などの類似点を探りながら文章を読む。		2
エ		○ 場面の構成の仕方、表現方法、登場人物の類似点や行動、言動などの類似点から宮沢賢治の人物像を想像する。	作品の類似点と宮沢賢治の人柄を結び付けて考えることができる。	3
オ		◎ 作品の類似点から文章に表れている宮沢賢治の人柄を捉え、必要に応じて作品を引用しながらレポートにまとめて仲間に紹介する。	自分の考えと他者の考えを比較しながら、宮沢賢治の人柄を考えることができる。	4 5
カ		・同一作者の作品を読むことの意味を考える。 ・文章を比較する観点を整理する。		4 5
語 文 化 (1)イイ			作品の中で使われている特徴ある語句の意味を理解する。	その語句の音やリズムを加味しながら、文脈から判断することで語句の意

		味を捉えることができる。	
国語への関心・意欲・態度		比較する作品を選び、類似点を探るために進んで作品を読み進めている。	

(3) 手だてとのかかわり

①レポート作成という言語活動の設定

この単元では、「宮沢賢治の人柄を作品から読み取り、レポート作成をする」という言語活動を設定した。レポート作成をするというゴールを設定することによって、この単元で何をしたらよいのか生徒と教師で共有できる。

そして、そのゴールに近づくため（到達するため）に何が学習として必要なのかも共有できる。ここでは、複数の作品を読み比べて、その類似点から宮沢賢治の人柄を作品から読み取ることとなる。生徒はレポート作成の目的のために、自発的に作品を読み進め、読み比べることとなった。またそこから様々な観点から類似点を見つけ出した。例えば、作中人物の設定の在り方であったり、作品の構造であったり、作品の構成の仕方であったりと、その発見は多岐にわたった。

②小学校の学習経験とつながる活動

この単元ではレポートを作成するために『オツベルと象』と比較作品を読まなければならない。比較する作品を自分の手で選ばせることで、意欲的に作品を読み進めることにつなげようとした。授業の中で自律的な活動を保障して、読みの推進力としようと考えたのである。宮沢賢治の作品は小学校の教科書に掲載されているので、少なくとも一作品は必ず読んでいくことになる。（ちなみに本校では附属小学校から入学してくる生徒と札幌市内から入学してくる生徒がいて、両者は、使用している教科書の出版会社が違うため、小学校時代に読んできた教科書掲載の宮沢賢治作品も違う。そのため出身小学校の違いから『雪わたり』と『やまなし』の二つの作品が比較される作品に選ばれることとなる。）それ以外の作品でも小学校時代の読書経験を活かして、様々な作品を選ばれることとなる。生徒は一度読んだことのある作品を懐かしそうに読むと同時に、何のために読むのかという目的意識をしっかりと持って読むことになった。

また、これから中学校に入学してくる生徒は、新指導要領で指導されて入学する。つまり「小学校 第5学年及び第6学年 C読むこと カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」を指導されて入学してくることになる。小学校で指導されてきたことなので、改めて中学校で指導する必要がない。小学校で習ったことが中学校でも活用されることで、小学校の学びの価値を実感することにもつながるものと考え。さらに、「中学校 第3学年 C読むこと ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。」の指導につなげていくことが可能である。

③仲間とのかかわりが必要とされる活動

この単元では、教室の中に比較する作品が同じ人もいれば違う人もいることになる。そうすると「自分と同じ作品を選んだ人はどんな類似点を見つけたのか？」「自分と違う作品を選んだ人はどんな類似点を見つけたのか？」という興味を高め、かかわる欲求を持つことになる。そのため全体交流の時間を取って、比較した作品ごとにどのような類似点を見出したのか、違った作品でも類似点はないかどうかを考えた。自分だけでは考えられなかった考えが全体交流によって得られることによって、仲間と学ぶ価値の実感につながると考えた。

④単元を見通すことができるプリントの配付

単元の最初に、教師のほうから、この単元はどのようなねらいをもって授業をしたいのか、そのためにどのような予定で授業を進めていくのかわかるようにしたプリントを用意し配付する。本校ではシラバスとっている。このプリントには、自分の目標や授業の記録、単元を通しての振り返りが書けるようになっている。授業の見通しと記録に常に戻れるようにしておくことで、自分がどのように学んでいるのか、自分の記述を通して客観的に振り返られることになる。

(4) 授業の生徒の記述

レポート例

宮澤賢治 どんなん？

生徒作品 1
 様々な作品と比べていく中で見えてくる共通点をもとに自分なりの宮澤賢治像をまとめている。この生徒は仲間の読みをもとにしてまとめることができている。

生徒作品 2
 仲間との交流をもとに「自然を愛している人」「想像ゆたかな人」「説明がうまい人」「理想を表している人」という観点で宮澤賢治像をまとめることができている。

<p>単元を見通すことができるプリントを配付する。そこには自分の目標や毎時間ごとの授業の記録、単元の振り返りが書けるようになっている。</p>	
<p>国語 1 単元名</p>	
<p>単元のねらい</p>	<p><input type="checkbox"/> 宮沢賢治の作品の特徴をとらえて、そこから自分なりの感想をいえる。 <input type="checkbox"/> 宮沢賢治が作品を通じて伝えたかかったことを感じ取ることができる。</p>
<p>自分の目標</p>	<p>まずは、宮沢賢治の残した作品を読んで、その作品の感想をしっかりと、その作品を通して伝えたいことを今までの学びを生かして、宮沢賢治をまとめていきたいです。</p>
<p>時間</p>	<p>授業内容 (学習の予定)</p>
<p>1 *宮沢賢治について理解する</p>	<p>宮沢賢治さんが、人間も自然も同じように生きている人だと思いました。次の時間からは、ここで学んだことを生かして宮沢賢治について学びたいです。</p> <p>8月26日木曜日</p>
<p>2 *オツベルと象と他の作品との比較</p>	<p>「オツベルと象」と「やまなし」を比べてみると、思ったよりも多くの共通点を見つけられることができました。何でも、色の表現が似ていたり、時制の分け方も共通していたので、レポート作成時に生かしたいです。</p> <p>9月7日水曜日 8月31日水曜日</p>
<p>3 *作品の特徴のまとめ</p>	<p>「やまなし」「雪わたり」「オツベルと象」とその他の賢治の作品も比べ、どれも異役がたり、自然が出たり...と、共通するところがたくさんありました。</p> <p>9月8日水曜日</p>
<p>4 *伝えたかかったことを感じる レポート作成</p>	<p>宮沢賢治という人はどういう人か... いつかをどのようにしてまとめようか悩んだです。 伝えたいところに色をぬたり、字を太くして宮沢賢治についてまとめることができました。</p> <p>9/5(月) 10月4日水曜日 9月27日水曜日 10/4(月)</p>
<p>5 *宮沢賢治についてまとめる</p>	<p>他の人の発表をきき、矢印をつかって表していたり、伝えたいことを真人中に書いたりなどの工夫などしていたので、自分の作品の参考になはは。声を少し大きく、視線を相手の方へ向けたので、うまく伝わりました。</p> <p>10月4日水曜日</p>
<p>単元のまとめ</p>	<p>◆自分の目標に対して、どの程度達成したのか。 ◆何が達成できて、何ができなかったのか。 ◆今までの取り組みとどのようにつながるのか。 ◆これからどのように取り組んでいくのか。</p> <p>10月5日金曜日</p>
<p>自分の目標は、ほぼ達成できたと思います。達成できたところは、主に2つあって、1つめは宮沢賢治が伝えたかかったことを「オツベルと象」や「やまなし」などから感じとれたからです。小学校では何を伝えたいかわからなかったけど、中学生になってあらためて読本と他の作品との比較もでき、宮沢賢治とはどんな人か...ということも知れたからです。2つめは、宮沢賢治の作品を読み、自分なりに考えをまとめられたからです。また、詩で学習した表現技法を生かして読むことのできたのでよかったです。この先宮沢賢治の作品をよむ時、この学習を思い出して、他の人の作品を読む時も伝えたいことを読み取ってきたいです。</p>	

目標の達成は、できたと思います。各作品の共通点を探すという力が、今回伸びたと思います。家では、たまたまなんとなくよたかの屋を読んでいたが、色々な見方をし、作者の人物像を知ること、その作品にこめられた意味を理解できるようにしたことで、良かったと思います。今後、賢治の作品はもちろん、他の人の作品を読むときも、今回の方法を使ったりして、より理解を深めていきたいです。

自分が一番最初にたつた目標以上のことをこの学習で学びました。私は、宮沢賢治がどういう人だったのか、どのようなこととしたのかを知りました。小学生の時に「やまなし」の学習をしました。その時「やまなし」という話をあまり理解できていなかったのですが、中学生になって、もう一度「やまなし」を読んでみると、なにか違う感じがしました。言葉では上手に言えないのですが、そう思えたことか、とてもうれしかったです。これから宮沢賢治がどういう人でどういう人生をおくったのかをもっと知りたいと思いました。

目標に対して、80%未満の達成率ができました。小学校のころに「やまなし」の学習はしていましたが、宮沢賢治の性格やどういふ人かを、読み取るにはできませんでした。でも、今回の学習では、宮沢賢治の性格など、たくさん発見がありました。それに、文やその他の作品との共通点などから、その人の性格やどういふ人なのかを読み取る力がとてもつきました。小学校のときより、成長したはずだ、実感することができました。今後、もっと色々な本を読んでいきたいです。

私は、宮沢賢治の作品を読んだり、プロフィールをしらべたり、など今回の授業で、一所懸命、自分なりに宮沢賢治の人物像をかたち作っていくことができました。また、レポート交流をしたことにより、新しい考え方、他の自分とちがう考え方などがたくさんあって、色々な視点から、宮沢賢治をみれたので良かったです。宮沢賢治の強い心、やさしい心に圧倒されて、私もこのような人になりたい!と思いました。これからは、人の意見を大切に、色々な視点から物事をみれるようにしたいです。

「宮沢賢治についてまとめてみる」でも書きましたが、とても多くの人が良い評価をもらえておられました。なので、次、また違うことで発表や交流をしたら、相手(読んでくれる人、班のメンバー)の良い点、改善点を見つけおしえてあげることが大切だと思いました。そのために自分の発表のことはもちろん、人の発表にもしっかりと耳をたかきつけてあげることから始まると思うので、しっかりとこうしたいです。また、作品の事では、小学校の時は、ただ言葉を読んで「へー最後に、こうなるのか〜」で終わってしまいましたが今は、「こういう結末だから作者は、こういうことを考えているんだ〜」作者のこころまで考えられるようになりました。